



環境学の

授業拝見!

理学、工学、人文社会科学、異なる専門領域の学生がともに学ぶ環境学研究科ならではの授業です。



井料先生

【今回の授業】**気候変動と社会基盤** 井料 美帆 准教授

環境学研究科の都市環境学専攻科目の一つ。以前の「気候変動政策論」を、交通工学を専門とする井料美帆先生が引き継ぎ、工学の視点から気候変動を考える授業を展開しています。NUGELP、NUPACEなど30人の国際色豊かな学生が受講。留學生の中には母国で公務員としての実務経験を持つ学生も多く、彼らに混じって6人の日本人学生が学んでいます。



「気候変動そのものが分野横断的課題で、なぜ起こるかには理学、その対策には工学、人文分野、両方を取り組まなければならない」と井料先生。防災や交通対策、都市のインフラ整備を考える上で、気候変動の知識を持つことは、工学を学ぶ学生にとって、今後ますます重要になると言います。



授業は、気候変動を概念として学ぶ座学と、一つの都市を選んでその現状と気候変動のリスクを分析しながら具体策を考えるグループワークで構成。「気候変動がどれほど喫緊の課題で具体的な対策が求められているか、一方、具体策を打つことがどれだけ困難か、肌で感じてもらいたい」と井料先生。気候変動を緩和しつつ、適応していくというゴールのために何ができるか。それぞれが異なる専門知識を持ち寄って大いに試行錯誤してほしいと願っています。



kronnaphat KHUMVONGSAさん カンボンサ カロンナパット
From Thailand 都市環境学専攻

"The best aspect of the climate change and infrastructure class is the Iryo-Sensei teaching style : by using mostly quantitative data and interpreting into tables and graphs. This teaching style is easy to understand and can make student concentrate on the class. Moreover, Iryo Sensei also had an interaction with students by putting some interesting quizzes. For example : by this quiz I just know that Japan have a capacity to store Carbon by "Carbon Capture and Storage Approach" (CCS) for 100 years. Overall, this class stimulate me to better be aware of upcoming various climate change events as well as discover more applicable mitigation and adaptation strategies."

菱川 貴文さん Hishikawa Takayuki
都市環境学専攻

授業を受ける学生のほとんどが留學生であり、その国籍も多様です。彼らが得てきた知識や経験は、日本人の私たちとは異なります。授業では気候変動に対する適応策・緩和策を考えていく方法を学びました。バックボーンが異なる彼らとともに知恵を出し合って、気候変動に対する政策をつくり上げていく過程が面白いです。

